

式 辞

美しい四季の移り変わりを体で感じながら、希望の丘にそびえ立つ校舎で学んだ三年間の高校生活。どうでしたか。今、担任の先生から呼名された自分の名、友の名を聞きながら、様々な思い出がよみがえってきたのではないのでしょうか。

本日は平成最後の高松西高等学校卒業証書授与式に、香川県教育委員 槇田 實 様、香川県議会議員 岡野朱里子 様、PTA会長 山口照雄 様をはじめ、御来賓の方々にご臨席賜り、また、多くの保護者の皆様にご出席いただきありがとうございます。

卒業生の皆さんおめでとう。また、保護者の皆様、これまで、多くのご苦勞があったと思われますが、本日、無事卒業されますこと、心中よりお喜び申し上げます。

さて、西高での高校生活は文武両道に象徴されます。まず、最後まで諦めず、すべての教科を学びながら希望の大学を目指すという創設以来の西高の建学の精神は、幅広く、基礎基本を大切にしたい学びであり、大学への学びに繋がります。また部活動は、年齢も違う、育ちも違う、価値観も異なる者たちが集まり、同じ目標を目指す中で互いに理解し、個性をどう発揮すればチームとして機能するか学びます。また、好きなことに青春のすべてをかけて打ち込めるのは周りに支えてくれる人たちがいるからだということ。そのことに感謝し、その人たちのために練習で、試合や発表会で、最善を尽くすことを経験します。感謝することと自己中心的にならず誰かのためにという生き方を学びます。

ところで、みなさんを待ち受ける大学は、学問の探求の場であり、同時に人間性を高める場でもあります。学問の探求とは、現代社会に存在する課題の中に専門的なテーマを見つけ出すこと、そして、そのテーマを深く掘り下げて追求することです。専門性が増せば増すほど、研究分野はより深く、狭い範囲に限定されますが、獲得していく新しい知識や技能はこれまでと比べものにならないくらい高度になります。そこに創造が生まれる可能性が高まるのです。この創造こそ、まだ見ぬ未来を生き抜く知恵となり、時代をリードする生き方を産み出します。しかし、忘れてはならないこともあります。それが、人間性つまり人間力や道徳性を高めるということです。専門外の学問にも興味を持ち積極的に学ぶ、読書をするなど、広く教養を高めることです。それは、学問の探求から人間性の乖離を阻止すること。また、社会生活における我々の行動規範となるからです。これらのことを考えると、西高で学んだことが大学での学びの基本になっていることが分かるでしょう。

話は変わりますが、西高の校舎は山本忠司という香川が生んだ偉大な建築家の設計によるものです。最近になってその価値が再発見され、今では海外の建築家や有名な大学までもが注目しています。「風土に根ざし、地域を育む建築を求めて」というコンセプトで西高校舎の設計は始まりました。さらに、当時、県民の「将来ある高校生には閑静な地で勉強させてやりたい」という願いも設計に組み込まれていきます。山本氏のこの校舎に託した思いは『環境と人間のかかわりを理解し、それを繋ぐ建築を大切にする。人間を大切にするところから建築を生み出し作り出すことを始める。環境と建築が遊離し建築が独り歩きすることはない。』と綴られている瀬戸内海建築憲章から察することができます。建築という言葉は科学や経済などと置き換えればすべてに通用する考え方です。われわれがこの世界において平和に生きて行く上で、より良い環境をつくるために何が必要なのか私たちに問いかけているようです。物にも命があると言われますが、美しい自然とともに存在し、様々な人々や地域の思いの詰まったこの校舎、いつの時代になっても変わらない「人として大切な生き方」を伝えてくれようとしています。この校舎に学んだことこそ誇りにしてよいのです。

また、本校にはこれからの時代を生き抜くために必要なキーワードがあります。

自立、自ら学ぶ姿勢を獲得し、生涯にわたって学び続ける覚悟を決める。西高での生活を通し、人間

力と道徳性を身につける。

連帯、決して自己中心的にならず思いやりの心を持って周りの人と協力すること、清く正しく生きる
ことの重要性を学ぶ。

創造、学ぶことの目的は創造することであり、創造は地域の、さらには国家や国際的な課題を見出し
解決する。つまり、世のため人のためとなっていく。

ただし、これらは目標ではなく目標を達成するための生き方であることを申し述べておきます。そして、この三つの言葉は、校歌の歌詞に綴られています。われわれの心に響く美しいメロディーとともにいつまでも君たちの心に刻まれることになるでしょう。そして未来の後輩たちへと歌い継がれ、西高の存在意義を示してくれるでしょう。

現代のような激変の時代は、考えてみれば君たちが活躍するための多くのチャンスがあると言えます。人工知能やビッグデータ然り、少子高齢化や地球温暖化然り、そこには人類にとって、これまでにない多くの生きた研究対象が山積されているからです。「自ら学ぶこと」と「自然を含めた他を思いやること」を体得した西高の卒業生にとっては大いに活躍が期待されます。

最後になりましたが、西高で学んだ君たちに伝えたいことがあります。現代はあまりにも自己中心的な考え方が多すぎる。国を先導する高学歴の者でさえ、自分さえよかったらとか自己保身に走った言動があったり、一流企業でさえ、データの改案、偽装があったりと耳を疑うような事件が発生しています。また、子どもたちはスマホ片手にゲーム依存で勉強や読書、スポーツや芸術に掛ける時間がどんどん減っていると言われています。このままでは近い将来、地方の町はなくなり、世界を先導してきた日本はどうなるのでしょうか。そこで君たちに託します。君たちは素晴らしい学校に学んだということ。それだけに自信を持って大学での学びに全力で臨み、その個性を伸ばしてほしい。必ず成長して、大学での学びに裏付けされた行動力と、忘れてはならない「思いやり」そして「正義」を身に付け、この香川を、日本を支える人材となり活躍してほしいということです。

すべては「世のため人のために」。卒業生諸君、いざ、さらば。

平成三十一年三月五日

香川県立高松西高等学校
校 長 佐 藤 良 二